

雨だれ石を穿つ

縁側のくつぬぎ石などに、小さな穴が点々と並んでいるのを見たことはありませんか。これは、長い間に落ちた雨だれがあけたものです。「雨だれ石を穿(う)つ」は、ごくわずかな力でも根気よく同じことをつづけていけば、大きな成果をもたらすとたとえて使われます。出典は『漢書』の枚乗伝で「泰山の霤(あだれ)、石を穿つ」です。「塵(ちり)も積もれば山となる」とは「穿つ」と「積もる」が正反対の現象ながら、意味するところは同じことわざになります。

総体・総文ではこの言葉のように、毎日積み重ねたこれまでの努力を十分に発揮できましたか。読書も同じです。毎日の朝の10分間がみなさんの思考を柔軟に、脳を活性化し、人生を豊かにします。読書という雨だれで、大きな成果をもたらしましょう。

旧図書館の中庭に、地球上最古の花木といわれている木蓮の木がありました。歴史ある金商高校に学ぶみなさんが、心も知識も大きく美しく成長することを願って、図書館だより「木蓮(もくれん)」をお届けします。

新着雑誌

『新聞ダイジェスト』

新聞ダイジェスト

●新聞6紙の主要記事を項目別に整理し、1カ月分をコンパクトにまとめています。時事問題、社会事象の学習に最適です。

図書委員がすすめる

読んで得するテッパン本

『ぼくは明日、昨日の君とデートする』七月隆文著

一目惚で高嶺の花に見えた彼女と交際にこぎつけたぼく。気配り上手でさびしがりやの彼女には、ぼくが想像もできなかった大きな秘密が隠されていて。真実を知ったとき、すぐにもう一度読み返したくなる。(32H)

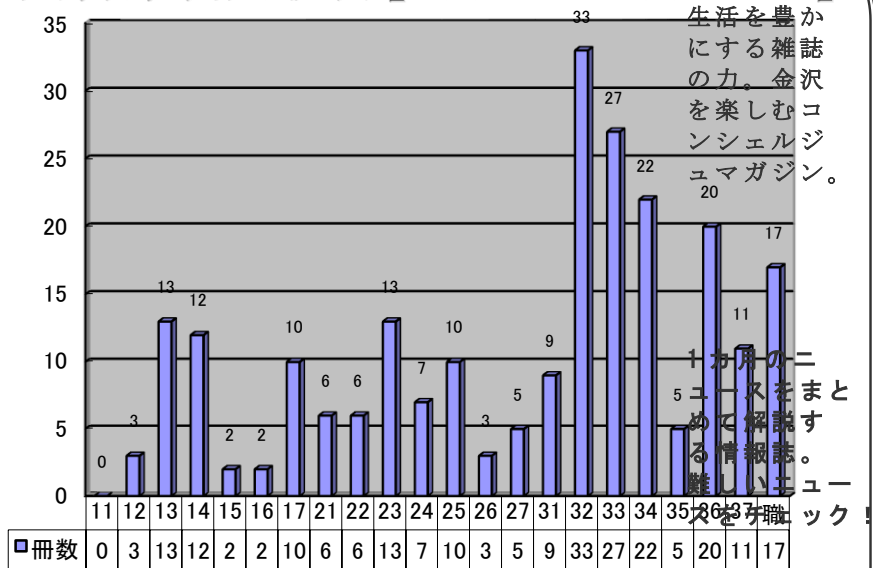
『君の隣臓を食べたい』住野よる著

タイトルだけを見ると怖い感じがしますが、読み進めるうちに意味が分かり始めます。偶然拾った1冊の文庫本からただのクラスメイトだった桜良と仲良くなります。二人の掛け合いも好きです。ラストは涙で文字が読めませんでした。(33H)

『天地明察』沖方丁著

難しい時代物だと思っていたけれど、主人公が天体に没頭していく様に引き込まれてあっという間に読み終わりました。自分の好きな事に素直で一生懸命な主人公が成し遂げた業績が今も残っていると、題名の意味も理解できてとても感動しました。(33H)

図書館利用統計【5月1日~5月31日】



5月の図書貸し出し総数は236冊でした。開館日数は18日で、1日平均にすると約13.1冊の貸し出しです。学年別では3年生が127冊、2年生が50冊で、1年生は42冊でした。入館者の総数は1,994人で、1日平均約111人の利用でした。図書館での授業は18時間ありました。中間考査の影響か入館者は増加したものの貸し出し数が半減しました。6月に期待しています!

お知らせ

文化講話を開催します!

毎年好評のPOP講習。図書委員はもちろん図書委員じゃなくても参加できます。希望者は図書館まで!
★6月17日(金)放課後、図書館(学習室)
*1時間程度で終了します

ありがとう

寄贈していただきました!
*株河村様より
『北国新聞縮刷版3月号』
『北国新聞縮DVD版』